



Prayer & SCIENCE

祈りとサイエンス

祈りにある宇宙の神秘

魚雷の攻撃を受けていたその船には、12人の少年が乗っていたが、船は転覆し、全員が海に投げ出された。少年たちはどうか離れ離れにならないように泳いでいたが、ぞっとする光景が目の前に迫ってきた。燃え上がる油が自分たちのほうに流れてきたのだ。逃れる道はないかに見えた。浮かんでいるのがやっとの彼らに、何ができるというのだろうか？

その時、少年の一人が大声で祈り始めた。他の少年たちは、神のことも全く知らず、祈り方を教わったこともなく、そのようなことには関心のない子ばかりだったが、その少年が、「神様、僕たちを助けて下さい！ この炎から助け出して下さい！」と必死で祈り始めると、みな口々に呼ばわった。「お願いします、神様！ 助けて下さい！」

すると突然、燃え広がる油の炎が前方で、パッと二つに分かれた。そして、慈しみ深い神は、少年たちの浮かんでいた所に、いかだを送られたのだった。

後日、この出来事を話してくれた少年は、最後にこう結んだそうです。「神は祈りを聞かれない、なんて言う人がいても、そんなこと、僕らの誰一人として耳を貸しませんよ」と。

この少年たちの祈りは、特別な言葉による祈りや特別な場所での祈りでもなければ、十字架や何かの像を使った祈りでもなく、ただ、「素直な心からの祈り」だったのです。

「祈り」と聞くと、「どうやって祈ったらいいかわからないし、言葉が出てこない」などと心配したり、形式を気にしたりする人もいますが、神が求めるのは、流暢さや儀礼ではなく、神に対する心からのコミュニケーションで、ただ、自分の気持ちを素直に伝えればいいのです。宗派や教会に属することも必要ありません。人類と宇宙の創造主である神は、全ての人の天の父として、誰がどこでどんな風に祈ったとしても、その祈りを聞いて下さるのです。

イエスも、どこで祈ったらいいのかという質問に対して、こう答えられました。「あなたがたは、この山でも、またエルサレムでもない所で、父を礼拝する時が来る。」「まことの礼拝する者たちが、霊とまことをもって礼拝する時が来る。そうだ、今きている。父はこのような礼拝をする者たちを求めておられるからである。神は霊であるから、礼拝をする者も、霊とまことをもって礼拝するべきである。」（聖書 ヨハネの福音書4:21,23,24）

「愛すること」、「信じる心を持つこと」、そして「祈りを通して神とコミュニケーションを持つこと」こそ、神が人々に一番望んでおられることですが、それは、私たちが頭で考えるほど複雑なことではありません。むしろシンプルすぎて受け入れ難いのかもかもしれません。神の偉大さは、大切な事柄をとてシンプルにされたことにも現われています。すべての人のためであり、誰でもそれを実行するなら、より幸せになり、充実した人生を送れるようにされたのです。

実は、多くの科学者が祈りに注目しています。祈りは無意味で、迷信と同類のように考える人もいますが、祈りの力について、様々な形で科学的な検証が行われており、祈りには、病気をいやし、心身の健康を保つ力があることが証明されてきています。

アメリカのある病院では、重度の心臓病患者393名を対象に、祈りの効果を研究するプロ

ジェクトが行われました。患者を二つのグループに分け、一つのグループは、一人一人の患者に向けて回復のための祈りが祈られ、もう片方のグループは祈りを受けませんでした。この二つのグループを比較研究した結果、祈りを受けたグループの患者は、明確に症状の回復が見られたのです。どの患者も、自分が祈ってもらっているとか、祈ってもらっていないことは知らされていませんでした。ですから、祈りが何らかの効果を表したわけです。

アメリカでは、ハーバード大学、コロンビア大学、デューク大学などが競ってこのような祈りの研究を進めており、祈りの治療効果に関する1200以上の研究事例があるそうです。

日本でも、遺伝子研究の分野で世界的な実績を持つ科学者、村上和雄氏と、祈りを専門に研究している棚次正和氏とが、祈りが遺伝子に与える影響について研究を進めています。村上氏は著書の中で、「祈りの効用は、病気に限ったことではなく、いろいろなことに積極的にそれを活かすべきだ」と書いており、祈りは遺伝子レベルでも作用するので、日々の生活にもっと祈るという行為を取り入れることを勧めています。

「不調和な思い(妬みや恨みなど)が混じった願いや、私利私欲のみ求める願望などは、祈り続けていくうちに自然消滅するはず」で、祈りという行為は、病気が治癒するのを妨げる不安定な心のブレを安定させ、心の中に中心軸ができるので、それがあるときには、薬よりも効き目があるそうです。

また、村上氏は、「なぜ人は祈らなくなったのか」と問いかけており、それは、科学が何でも解決してくれるという過度の期待や信頼の結果、はっきりしないことや、よくわからないことについて、自分で深く考えなくなってしまったからだとも言っています。そして、村上氏自身、学者として遺伝子の研究をしている内に、あまりにその精妙な設計に、遺伝子が偶然の結果書き込まれたものとは思えないと感じると書いており、これからは科学と宗教がふたたび接近するだろうと語っています。

歴史上の有名な科学者、コペルニクス、ガリレオ、ニュートン、アインシュタインなども、研究を進める内にますます神を信じるようになり、祈りの素晴らしさについて名言を残しています。

村上氏は、「本来、祈りは身につけているのです。遺伝子に刻み込まれているはずなのです。」と言いますが、それは、もともと神が人間を造られた時から、人の心の中に神と接続できるように、そのような設定を造られたというその素晴らしい神の計画の証明なのではないでしょうか？

Vol.7-5

科学者たちからのアドバイス

祈りとは、人が起こすことのできる最も強力なエネルギー形態だ。祈りが人間の思考および体に及ぼす影響力は、セクレチン分泌液の影響と同等に実証することができる。その成果は、順応性や知力の増加、道徳的なスタミナの増加、人間関係の理解の深まりという形で測定することができる。祈りは、完全なる人格の形成に絶対欠かせぬものである。祈りによってのみ、私たちの精神と体と霊とは完璧に組み立てられることができる。それによって、虚弱な人間的要求にその揺るがぬ力が与えられるのである。私たちは、祈る時、この宇宙を回転させている無尽蔵の原動力とつながるのだ。

--アレクシス・カレル博士
(ノーベル生理医学賞を受賞した外科医)

私の発見は全て祈りに対する答えである。望遠鏡を使えば、この大宇宙の何万何億キロ彼方を見ることができるが、望遠鏡から離れて自室に行き、心から祈るなら、望遠鏡など地上の媒介物の助けを借りるよりももっと天を広く見ることができるし、神にずっと近くなることができる。

--アイザック・ニュートン

一国全体が祈っている姿を見ることは、原子爆弾の爆発以上に畏敬の念を起こさせる。祈りの力は、人造の、あるいは人間によってコントロールされた力のいかなる組み合わせにも勝る大いなるものだ。祈りとは、無尽蔵の源を開発する最高の手段なのだから。祈りによって神の憐れみと力を刺激することは、悩み、無力な、地に住む人々に、平和と安全とを保証する有効な手段となる。」

--FBIの局長、J・エドガー・フーバー

